

インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) トウヨウダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) ナカノゼミナール
東洋大学	経営学部	中野ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) ビーチーム	フリガナ) キムラ アヤカ	5 人	無し	
B チーム	木村 彩花			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

なし

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ (発表タイトル)

コミュニティ作りの新たなキッカケを

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

本研究は、コミュニティカフェを中心として地域住民のネットワークを築くことを目的としている。研究題材として、私たちは東京都文京区千石にある地域コミュニティを取り上げた。なぜなら、私たちが通学している大学の近くの地域には多くの学生や社会人が多くいるが、コミュニティが形成されているか否かが私たちは気になったからだ。

地域コミュニティの課題解決には自治体や行政が関わるものだが、民間の方がコミュニティカフェという手段を用いてそれを解決しようとしている。文京区千石には「風のやすみば」というコミュニティカフェがあるので、それを中心として千石の地域住民のネットワークを築きたいと考えた。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

近年、地域ネットワークが希薄化している。マイナビウーマン(2016)によると、ご近所の方を顔や名前を知っている程度の人がいる、全く知らない、と答えた方は半数を超えており、単身世帯にすれば 8 割弱の方はそう答えた。このように、地域住民同士のネットワークが薄れてきている。その理由として、経済・社会環境が変化する中で、人々の価値観の変化や生活スタイルが大きく

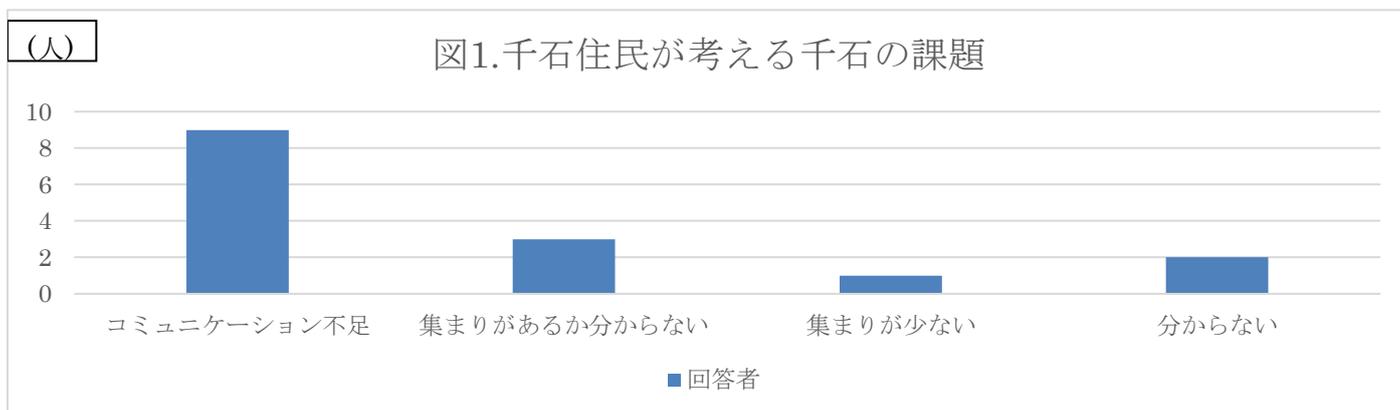
変化したことが挙げられている(工藤,2014)。その弊害として、子どもが被害に遭う事件や子育てに関する相談相手がいない、一人暮らしの方が孤独死してしまうことが挙げられている(工藤,2014)。そういったことを防ぐためには地域ネットワークの強化が必要となる。地域ネットワークが強化されることで、災害時など非常時に復旧が迅速になる、子供を狙う犯罪や事故を防げる、高齢者の孤独死を未然に防げるというような効果が期待できる。

コミュニティカフェの定義は「飲食を共にすることを基本に誰もがいつでも気軽に立ち寄り、自由に過ごすことが出来る場所」(倉持,2014)や「人と人が交差する自由な空間、あらゆる情報の交差点、友達を作る(人的ネットワークを広げる)、もっと素敵な生き方にチャレンジするキッカケをもつ場所」(今瀬・松行,2015)とあり、明確な定義はない。

コミュニティカフェの大きな特徴は大きく分けて2つある。第一に、カフェ事業以外の事業を展開していることである。研究対象である風のやすみばは、カフェ事業のほかに「なんでも屋」という事業を展開している。第二に、事業性だけでなく、社会性の要素が加わっていることである。これは収益を第一に考えるのではなく、人々のミッションを達成したり、地域のつながりを強化したり、他企業や行政の支援を受けて地域課題を解決したりする。

3. 研究テーマの課題

千石の地域課題を知るために、私たちは地域住民15名にインタビュー調査(実施日時:9月19日13:30~15:00)を行った。その答えが、地域住民とコミュニケーションをとることが出来ていないというものであった。その理由として、マンションが次々と建ったことやスマートフォンが普及、高齢化が進み、関わっていた人が少なくなってしまった、ということが挙げられていた。



また、風のやすみばの課題を知るために、私たちはインタビューを実施した(実施日:2018年6月12日、2018年7月3日、2018年8月26日)。インタビューの結果から、風のやすみばの課題は以下の5点であった。第一に、お客様の年代層が偏っている点。第二に、働き手の人手が不足している点。第三に、サポートしてくれる人たちとの出会いがなく、後継者がいない点。第四に、ランチ以外でこの場所を活用することが出来ていない点。第五に、なぜのやすみばの活動を周知させることが出来ていない点、であった。このことから、私たちは働き手や後継者の獲得につながるきっかけ作りと幅広い年代層が集まるようなイベントが実施できていないという二つことが、風のやすみばの課題であると考えた。

4. 課題解決策(新たなビジネスモデル・理論など)

私たちは、風のやすみばを利用して風のやすみBarを実施・運営をする。風のやすみBarとは、ランチタイム外の時間帯において酒・飲料を飲みながら、第一印象ゲームとボードゲームを行うものである。ボードゲームを選択した理由は誰でも知っているもので気軽に楽しめること、ゲームが盛り上がることでコミュニケーションが促進されることの2つのことを予想できると考えたからだ。また、ボードゲームには上記の2つの要素が加わっているため、地域住民同士のコミュニケーションが促進され、千石の地域課題が解決されることや風のやすみばにおいて異世代間交流が図れるという効果が期待できる。

目的は以下の二点である。第一に、千石地域の課題であった地域住民とのコミュニケーション不足を解消する点。第二に、風のやすみばの課題であった異世代間交流が出来ていないという問題を解決する点である。なお、今回は実現可能性と千石の地域課題を考慮し、解決する風のやすみばの課題を異世代間交流と定める。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

風のやすみ Bar が開催されるタイミングを月に 1 回である。時間帯は 18:00～21:00 である。これは、授業終わりの学生や会社終わりの社会人を取り込むという目的だ。入退室自由で飲料の持参は不可だが、食べ物の持参は可能である。参加費は 1000 円（小学生以下無料）とする。

プログラムの流れは以下の通りである。

表 1:風のやすみ Bar のプログラム

18:00～18:20	自己紹介・第一印象ゲーム
18:20～21:00	ボードゲーム

参加者が最初に座る席はクジによって、決められる。席が決まったら、まず、自己紹介として、第一印象ゲームを行う。これは参加者の中で出題されたテーマに最も当てはまりそうな人をそれぞれの人が指をさし、その数が最も多かった人から自己紹介をしていく。これにより、最初にコミュニケーションを参加者同士で行う機会が設けられる。その後、ボードゲームを行う。その種類は複数あり、30 分ごとにメンバーを変えていく。メンバーは、ボードゲーム毎の順位によって変えられる。

続いて、風のやすみば、参加者のメリットを紹介する。まず、風のやすみばのメリットは以下の二点である。今ままでできていなかった異世代間交流を促進する点とランチタイム外の時間を使うことで、場所を有効活用できる点である。次に、参加者のメリットは以下の二点である。第一に、今まで知らなかった人と関わる機会となる点である。今回のイベントはボードゲームが中心となっているので、それを楽しむことを目的に参加する人がいる。そのような人たちは、ただボードゲームを楽しむだけでなく、様々な人と関わる機会となり、コミュニケーションをとることになるのだ。第二に、様々な世代の価値観を理解できる点である。このイベントでは、異世代間交流を図ることが出来るため、それぞれの価値観や考え方、流行を理解する機会となる。それらを理解することによって、参加者が興味をもち、コミュニケーションをとることに繋がる。

集客方法は以下の二つの手段を用いる。第一に、風のやすみば・東洋大学・企業・町会の掲示板にポスターを貼ることだ。まず、風のやすみばと東洋大学にポスターを貼ることで、常連客と学生にアプローチすることができる。企業にもポスターを貼るが、対象企業はかぜのやすみばから近い企業とする。候補としては、株式会社童心社様が挙げられている。それによって、社会人にもアプローチすることが可能となる。また、町会の掲示板に貼ることで、地域住民がそのイベントを認知する可能性が高まる。

第二に、区報の記事に載せてもらう点である。ポスターだけでは、集客することが難しくなるので、区報の記事としてこのイベントを取り上げてもらう。加藤様から千石の地域住民は区報を見る傾向にあるとおっしゃっていたので、区報を用いることで、更なる集客を取り込める。以上のことから、風のやすみばを中心として地域コミュニティの課題を解決できる。

6. 結果や今後の取り組み

地域住民は、この提案の良かった点として千石の住民と関わる機会が増える、気軽に参加できるということを述べていた。一方、懸念となる点として、いつボードゲーム大会が開かれるか分からないという認知に対する点を挙げていた。

風のやすみばの店主である加藤様は、以前からボードゲームを使った地域住民との交流を行いたいとおっしゃっていたので、その点について高評価していた。また、加藤様は異世代間交流を図れるという点においても好感を持っていた。しかし、加藤様は常連客が夜の時間帯に料金を払って、このイベントに参加するか否かということについて懸念していた。また、加藤様は集客手段としてポスターと区報だけでは効果がないのではないかとおっしゃっていた。そのため、集客手段についても課題が残っている。これらフィードバックを含めて後日、加藤様と私たちの提案についてミーティングを行い、実施に向けて準備を進めていく。

7. 参考文献

今瀬和哉・松行美帆子（2015）「コミュニティカフェの継続に必要な条件についての一考察-横浜市・川崎市のコミュニティカフェを事例として-」『公益社団法人日本都市計画学会 都市計画報告書』http://www.cpij.or.jp/com/ac/reports/13-4_151.pdf#search=%27%E5%B7%9D%E5%B4%8E+%E3%82%B3%E3%83%9F%E3%83%A5%E3%83%8B%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%AB%E3%83%95%E3%82%A7+%E8%AB%96%E6%96%87%27 2018 年 8 月 25 日閲覧。

マイナビウーマン (2016)「イマドキのご近所付き合い、単身世帯の35%が「顔も名前も知らない」」<https://woman.mynavi.jp/article/160115-124/> 2018年8月26日閲覧。

小倉加奈代,田中唯太,西本一志 (2012)「大皿を介した食卓インタラクションの分析-「取り分ける」行為を利用したコミュニケーション活性化の試み」『情報処理学会研究報告』Vol.2012-HCI-146 No.15 p1 <https://dspace.jaist.ac.jp/dspace/bitstream/10119/10622/1/18040.pdf> 2018年9月19日閲覧。

菅原浩伸 (2011)「北海道におけるコミュニティ・カフェのマネジメント」http://www.hkk.or.jp/kouhou/file/no598_report-1.pdf 2018年8月25日閲覧。

矢板市秘書政策室政策班 (2014)『地域のつながりは地域の力でー地域コミュニティ活動の手引きー』<https://www.city.yaita.tochigi.jp/uploaded/attachment/1486.pdf> 2018年9月10日閲覧。

山崎安則 (2011)「小地域における“つながり”の再構築：小地域ネットワーク活動を中心に」file:///C:/Users/marik/Downloads/6_19.pdf 2018年8月26日閲覧。

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経BPマーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ **ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください**